

## 多言語対応・ICT化推進フォーラムを開催

先進的取組事例やICTの最新技術動向など  
多言語対応のノウハウをまとめて提供

平成27年7月22日、東京国際フォーラムのホールD1、D5、D7にて、「多言語対応・ICT化推進フォーラム ～人と技術によるおもてなし～」(2020年オリンピック・パラリンピック大会に向けた多言語対応協議会主催、総務省共催)が開催された。このフォーラムでは、多言語対応の先進的取組事例や最新のICTの技術動向を紹介。2020年のオリンピック・パラリンピック大会に向け、多言語対応の取組の加速と“言葉のバリアフリー化”の早期実現を目指して行われた。



舛添要一 都知事の挨拶



遠藤利明 東京オリンピック・パラリンピック大臣の挨拶

開会に先立ち、舛添要一東京都知事が登壇し、「東京マラソン 2015」におけるスマートフォンを活用した翻訳アプリの活用や、新宿駅の案内サイン等の改善を図る「新宿ターミナル協議会」の立ち上げといった東京都の活動を紹介。「オリンピック・パラリンピック大会の成功には、技術だけではなく、心のバリアフリーが必要。国や民間と協力をし、“世界一の東京”を目指したい」と力強く語った。

続いて、遠藤利明東京オリンピック・パラリンピック大臣が登壇。「2020年の東京オリンピック・パラリンピック大会がユニバーサル社会の実現のきっかけになってほしい。そのためにはICT技術の開発が大事である。政府としても全力で取組むとともに、都知事ともスクラムを組んで邁進していく」と宣言し、フォーラム開会の挨拶とした。



首都大学東京の留学生、西郡教授及び舛添知事が参加したパネルディスカッション

その後、ステージでは、パネルディスカッションや講演が行われた。首都大学東京の留学生によるパネルディスカッションでは、首都大学東京西郡教授の進行のもと東京の言語景観や、案内サインの調査結果などを紹介。留学生の目から見た多言語表示の改善点を意見交換した。また、講演では、総務省が行っている社会全体のICT化推進の施策についての説明や、自治体・民間団体の外国人旅行者への多言語対応に関する事



**総務省講演**

**2020年に向けた社会全体のICT化推進について**

818名もの来場があり、多言語対応・ICT化への注目度の高さ、重要性を改めて感じさせる内容となった。

例紹介が行われ、それを受けたワークショップもあわせて行われた。

技術紹介ゾーンでは、翻訳アプリやデジタルサイネージのほか、多言語でコミュニケーションを行うロボット、聴覚障害者とのコミュニケーション支援アプリ、防災関連のシステムなどの多言語対応等に関する最先端の技術が一堂に会し、それぞれデモンストレーションが行われた。先端技術を実際に体験できる機会とあって、どの展示においても、担当者の技術説明に全国の自治体など来場者が真剣に耳を傾ける姿が多く見られた。



D5 技術紹介ゾーンにおける視察の様子  
(左上) (右上) (左下)

D1 ワークショップの様子  
(右下)

※開催報告など本フォーラムの詳しい状況については今後、多言語対応協議会ポータルサイトに掲載いたします。

**問い合わせ先**

問い合わせ先 : 2020年オリンピック・パラリンピック大会に向けた多言語対応協議会事務局  
東京都オリンピック・パラリンピック準備局総合調整部  
電話番号 : 03-5388-2169